

出席者 市教委(教) 宮島年夫教育長 二村圭史指導主事
知教労(組) 佐田京美 岡崎良久 堀口典宏

1 教員の未配置問題について

組 大府市で未配置の状況とその対応はどうしているか。

教 育休等で補充できない人は7人。校内で補っている。大学とも連絡したが、見つからない。

組 校内で補充できていればそれで通すことなく、必死に探してほしい。大府中で非常勤講師の方2名が、勤務の上限300時間のため学期末に授業ができない日が発生することがわかった。授業は時間割通りあるので、欠員とはまた違う「教育に穴があく」問題が最近発覚した。先生を探してもいないという状況ならまだ仕方がないが、現に勤務している状況なので、別件で契約をお願いしたい。

教 校長と話をする。

組 県での契約がだめなら市でやってほしい。

教 簡単にやるとは言えない。

2 部活動について

組 3年間かけて地域移行するということだが、1年目、2年目のスケジュール的なものはあるのか。

教 準備委員会を年内に立ち上げて、地域や教員、企業の協力を考えるのと同時に、1、2年生は校内の部活として入っているのをそれを保証していく。郡大会や中小体連の大会がどうなるかが見えてこない。準備委員会の学校関係者は中学校の校長1人。文化活動も同じように進むと思う。

組 事前に情報発信するのか。

教 必要に応じて年度内に学校や保護者に伝えたい。

組 部活とは別組織でクラブチームを教員が立ち上げた時のことだが、兼職兼業の計画はあるか。

教 教員が土日に兼職兼業するのは可能だ。だが気になるのは労働時間。やりたい人がいれば、その意向は尊重したい。

組 兼職兼業は、平日の部活動の書き換えではなく、全く別の組織として活動するときの話に限ると国からの提言にはある。

今の部活動は小中体連の大会やコンクールが中心で、勝つこと、3年間継続してやるのが未だ基本になっている。部活動のあり方はどのようなものがよいと大府市は考えているのか。

教 すごく難しいところ。楽しむ子もいれば、レベルを上げて大会に出たい子もいる。部活か地域部活かの区分けは分からない。平日先生が教える、休日は地

域にもっていく。では土日試合に行くのはどうするか？今後調整していくべきことと考える。今の1年生は部活への思いをもって入ってきているので、彼らには今の形を維持していきたい。

組 部活動に関するビジョンがないように思う。子どもたちの活動意識の芽生えを保障するための体験としての部活もありだ。今の学校の部活は勝つことが目標になっているから、冬場は時間が足りないという意識になる。大会中心の部活を目指すのか、幅広い体験をする体育の授業+αと考えるのかで部活動の位置づけが変わってくる。新しく入ってくる1年生が変化のチャンス。今のあり方のままで土日だけ別の指導者になるのでは地域移行は失敗しそう。学校での部活動のあり方・学校から部活動指導を切り離す事も含め、ビジョンを準備委員会で話し合っていたきたい。

教 もちろん、考えていく。自分の世界を拡げるためにやってみようというのは良い発想だ。

組 3年間の予算措置は？

教 要望していく。

組 現在の部活を地域移行するのは、学校の中での活動を減らしながら、地域の分を拡げる両方が必要だ。

教 急には学校は対応できない。子どもの気持ちも戸惑う。今は学校と地域両方が必要だと思う。縮小傾向にあるのは確か。

組 現在の部活の見直しだが、冬場は部活動をやらない期間、オフ期間があってよい。

教 今年度から朝部は行わないことにした。今後また変わっていくだろうが、今年度は冬場は少しでも部活動の時間を確保できるようにと校長会で統一している。どこで時間を生み出しているかは学校による。

組 短時間ではあまり効果がないという意見も出ている。働き方改革の点からも、次年度は考えてもらいたい。

教 次年度に向けて、価値のある意見として受け取っておく。

組 学校外の子どもたちの活動場所、すなわち居場所にどんなものがあるかを知らせてもらいたい。

教 あれば紹介するが、自分がやりたいとなったら、自分で探す力も、今の子に求められているのかなと思う。そういう力を付けていかないと。

組 それは、生徒の実態の中では現実的ではない。やりたかったら自分で探ささいというのは難し

い課題だ。学校と塾以外の場所で幅広い大人とふれあうことが求められる。例えば、4月に校内で部活動紹介があるが、その中に地域の囲碁やダンス、演劇、合唱などの活動を紹介できれば、学校の外に目が広がっていくのではないか。

教 学校でやればいいのか？大府広報に毎月載っている。保護者としては学校という敷地でできるのが安心。他の団体が入って下校まで指導してと先生の負担にならないように町ぐるみの活動として総合的に動き始めている。しばらく様子を見てほしい。令和7年度は完全に土日は地域移行をスタートさせていこうと考えている。平日はその後。県も12月頃までには方向性を出すだろう。いずれは国中が平日も部活動は地域移行にいくだろうと予想している。

組 土日の地域完全移行は、部活動の延長か。

教 別の団体として。ただ、最初から部活を解体するのではなく、平日に引き続いて活動できるよう保障したい。詳しくは準備委員会で進めていく。

組 現場の意見を表明する場も保障してほしい。

教 それはわかった。

3 勤怠ソフトについて

組 勤怠ソフト「IEYASU」は教員の働き方にそっていない。昨年度も指摘したが、変わっていないので大きな問題だ。

教 教委としては予算要望はしている。通るかどうかはわからない。

組 休憩が取れていることがもとから入っている設定は今からでも止めてほしい。実際昼は休憩は取れない。休憩は取れない前提で設定し、取れたらそれを計上するシステムにしてほしい。割り振りも必要だ。民間では休憩に入る時と終わる時にタイムカードを打っているところもある。

休憩してないのにしたことになっていると月に16時間くらい超過労働が少なく計上される。実態と合わず、超過労働の時間の記録の信憑性が問われる。正確にとってほしい。

教 取れなかった場合は教頭に話をするとと思う。

組 児童生徒がいる日々はとれていないという認識をもってほしい。休憩は一斉付与が原則だ。

教 休憩は取るように。順番に取るとか工夫をして取るようにする。

組 とれないなら割振りの対象としてよいか。

教 休憩が無しとは言えないので休憩時間の変更を教頭に言うように。

4 教員が編集する冊子について

組 慣例的に購入しているだけで、毎年意義を確認しているわけではない。編集のための出張で授業ができなくなったりしているのは大府市の教育にとってもマイナス。教師が編集する冊子が必要なのか、代用のものでもよいのか、そもそもなくてもよいのか、アンケートを採ってほしい。その結果で進めていくかどうか決めてほしい。多忙化解消につながる。

教 健康手帳は、中学校ではやめたが、小学校では買っている。小学校では使い勝手がいいと聞いている。校長に学校の運営を頼んでいるので、校長会と話をしている。小学校も使わなくていいとなればなくす。校長に任せているのでアンケートを採ることは考えていない。校長会での話し合いで決めればよい。要らないとなれば保護者負担軽減にもなるのでそのように手続きを取る。

5 朝のあいさつ運動について

組 キラキラで、市内一斉の挨拶運動を勤務前にすることが実施されているが、給特法違反だ。やめてほしい。

教 朝でなくても下校の時でもいいと校長に伝えてある。

組 実際には朝子どもが立っている。児童会・生徒会がやれば顧問も立つことになる。

また、児童会・生徒会・PTAは自主的な組織であるはずなのに、あいさつ運動をする事を市や教委が決めるのはおかしいことだ。

教 自主活動なのでやらしてもらえればありがたい。

組 ボランティアで業務をやらせてはいけない。

組 子どもたちが登校する前に勤務開始時刻が設定されていれば、あいさつ運動は可能だが、今の時間帯では勤務時間外になる。こういうことの積み重ねから勤務時間に対する意識が低くなる。

組 今は勤務時間と登校時間が同じに近い。授業時間は名古屋のように帯タイムを3回やれば1時間分にするなどすれば時間ができる。また、余剰時間分を朝に充てれば余裕ができる。

6 特定事業主行動計画に教員を入れるように

組 令和7年度までに大府市は超勤を月に12時間までを目指している。庁舎の中と教員は働き方がかけ離れている。教員は各自治体で管理されることになっている。教員も年休取得促進と長時間労働を減らすための、目標と実際の値を出し公表していただきたい。